

『令和7年版 毒物劇物取扱者試験 問題集 北海道&東日本編』お詫びと訂正のお知らせ

弊社出版物「令和7年版 毒物劇物取扱者試験 問題集 北海道&東日本編」をご購入いただきまして、誠にありがとうございます。

本書の内容に誤りがございました。この度はご迷惑をおかけ致しまして誠に申し訳ございません。訂正してお詫び申し上げます。

頁数等	内 容		掲載日
179 ページ 令和6年度 長野県 ▶▶正解&解説【33】 〔解説〕	誤	D. フェノールフタレイン (PP) は変色域がアルカリ (塩基) 性側 (pH 8.0~9.8) にあり、pH8.3以下では透明を、pH10.0以上では赤色を示す。酸性において赤色を示す指示薬はメチルオレンジ (MO) である。	令和7年 3月5日
	正	D. フェノールフタレイン (PP) は変色域がアルカリ (塩基) 性側 (pH 8.0~9.8) にあり、pH8.0以下では透明を、pH9.8以上では赤色を示す。酸性において赤色を示す指示薬はメチルオレンジ (MO) である。	
207 ページ 令和5年度 長野県 ▶▶正解&解説【33】 〔解説〕	誤	フェノールフタレイン (PP) は変色域が塩基性側 (pH8.0~9.8) にあり、pH8.3以下では透明を、pH10.0以上では赤色を示す。従って、塩基性溶液はフェノールフタレインを透明から赤色に変色させる。	
	正	フェノールフタレイン (PP) は変色域が塩基性側 (pH8.0~9.8) にあり、pH8.0以下では透明を、pH9.8以上では赤色を示す。従って、塩基性溶液はフェノールフタレインを透明から赤色に変色させる。	
235 ページ 令和6年度 富山県 ▶▶正解&解説【21】 〔解説〕	誤	4. 「物質の溶解度が異なることを利用」という記述から、昇華法の操作説明である。	令和7年 2月21日
	正	4. 「物質の溶解度が異なることを利用」という記述から、再結晶の操作説明である。	
274 ページ 令和5年度 富山県 ▶▶正解&解説【39】 〔解説〕	誤	1. フェノールフタレイン (PP) は変色域が塩基性側 (pH8.0~9.8) にあり、pH8.3以下では透明を、pH10.0以上では赤色を示す。設問の滴定で生じる水溶液は塩基性を示すため、選択肢の記述は正しい。	令和7年 3月5日
	正	1. フェノールフタレイン (PP) は変色域が塩基性側 (pH8.0~9.8) にあり、pH8.0以下では透明を、pH9.8以上では赤色を示す。設問の滴定で生じる水溶液は塩基性を示すため、選択肢の記述は正しい。	